

公立大学法人青森公立大学の平成 29 年度業務実績評価について

【評価方法】

「公立大学法人青森公立大学事業年度評価実施要領」に基づき、評価を実施。

【項目別評価(大項目別評価)】

法人の自己評価結果及び第 1 回評価委員会における公立大学へのヒアリングを踏まえ、委員が評価理由を明らかにしたうえで、それぞれ 5 段階評価を実施する。

その評価結果については、平均値を四捨五入し、評点数とする。

(ただし、平均 4.5 以上 5 未満については 4 点とする。)

5 : 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

4 : 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

3 : 中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。

2 : 中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

1 : 中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

○評点数一覧

中期計画に掲げる大項目		評 価 者					平 均	評 価 点数(案)
		A	B	C	D	E		
1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画(教育)	3	4	4	3	4	3.6	4
2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画(研究)	4	4	4	3	4	3.8	4
3	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画(地域貢献)	4	4	4	3	5	4.0	4
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	4	3	4	3	4	3.6	4
5	経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	4	4	4	3	4	3.8	4
6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	4	4	3	3	4	3.6	4
7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	4	4	3	4	4	3.8	4

○全体評価

委員評価	業務実績評価書（案）
1 総評	1 総評
<ul style="list-style-type: none"> ・入学志願者が、昨年度比7.72%増加していることは、公立大学による県内、県外への高校訪問の拡充という努力に加え、就職率が99%以上という高い実績に評価されているものと考える。 ・特に平成29年度においては、女性の就職内定率が100%、男女全体でも99.3%と昨年度をさらに上回る実績をあげており、大学に対する評価は、さらに高まっていくものと思われる。 ・教育研究の質向上に関する多くの取組みが実施されていること、入学志願者数の増加が図られるなどの実績が出ていること、地域への貢献に関する多くの取組みがされていることなど評価できる。 ・地域貢献においても、高大連携、地域の大学間連携に積極的に取り組んでおり、地域を重視した活動が、行われている。また、物産展の輪が県内各市町村参加の拡大として実を結んでおり、自治体との連携強化につながっていることは、新たな展開を予感させる。 ・産学官金の連携を一層推進することにより、より大きな成果を期待する。 	<p>公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、青森市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、青森市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。 <第2期中期目標 前文からの抜粋></p> <p>第2期中期目標期間（平成27年度から平成32年度まで）の3年目となる平成29年度は、</p> <p>公立大学による県内、県外への高校訪問の取組などにより、入学志願者が949名と平成28年度の843名より大幅に増加していることや、就職率が、全体でも目標値96.0%に対して、99.3%（女性については100%）と平成28年度の99.0%をさらに上回っており、公立大学として高い実績をあげている。</p> <p>また、教育研究の質向上に関する多くの取組みが実施されていること、地域貢献においては、高大連携、地域の大学間連携に積極的に取り組んでおり、地域を重視した活動が行われている。また、物産展の輪が県内各市町村参加の拡大として実を結び、自治体との連携強化につながっている。</p> <p>今後も、産学官金の連携を一層推進することにより、青森市が掲げる施策の推進に貢献し、市民生活及び文化の向上への寄与に対し、より大きな成果を期待する。</p> <p>よって、平成29年度の年度計画については、中期計画の達成に向けて、ほぼ計画どおりに実施したと評価できる。</p>

委員評価	業務実績評価書（案）
2 業務の実施状況	2 業務の実施状況
<p><u>1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）</u></p> <p><u>2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）</u></p> <p><u>3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）</u></p> <p><※上記項目別評価より></p> <p><u>4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画</u></p> <p><※上記項目別評価より></p> <p><u>5 経営・財務内容の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画</u></p> <p><※上記項目別評価より></p> <p><u>6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画</u></p> <p><u>7 その他業務運営に関する目標を達成するための計画</u></p> <p><※上記項目別評価より></p>	<p>教育研究等の質の向上（教育、研究及び地域貢献）に関しては、アクティブラーニング室における授業が、平成28年度の176コマから251コマへと大幅に増加しており、学生の主体的・能動的学習が実施されている。</p> <p>教員等によるテーマ別公開講座を5シリーズ44回開催するなど、研究成果の地域への還元がなされているほか、海外研究者を招へいした研究会や専任教員の海外学会への参加によるグローバルな視点からの研究が推進されている。</p> <p>業務運営の改善及び効率化に関しては、内部監査の実施を、年1回から年2回とし、適正かつ透明性のある大学運営の推進を図っているほか、人材育成を図るため、新たに青森市と協定を締結し、青森市の研修に参加する仕組みを構築・実施するなど、事務職員の研修の充実が図られている。</p> <p>経営・財務内容の改善に関しては、公的研究費に係る旅費の手続きや、立替払の手続きを簡素化し、事務の効率化が図られている。</p> <p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供並びにその他の業務運営に関しては、情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティの向上を図ったことや、AED講習会の実施などの防災対策に加え、新たに「さすまた」の扱いに関する講習会を実施するなど防犯対策の強化が図られており、その他の事項についても着実に実施されている。</p>

委員評価	業務実績評価書（案）
3 組織、業務運営等に係る改善事項等	3 組織、業務運営等に係る改善事項等
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院課程への入学者数の低迷が続いていること、事務職員の人事評価が十分に実施されていないことなどの引き続きの課題が残されたままであり、これらについては一層の検討と取組みが求められる。 ・「検討した」、「調査した」で終わらずに、期限を決めて、なんらかの結論を出すことが重要だと考える。 ・「改善する」、「試行する」など行動を伴う年度計画に対して、実績が「検討」「調査」「問題点の把握」の段階で終わっている項目について、自己評価がBというのは甘いのではと考える。 ・平成28年度の業務実績報告書と比較して、昨年度、業務実績が「努めた」、「検討した」とされていた内容が具体的な数値を用いた表現に改善されたものの、年度計画に対する業務実績として具体的な内容となるよう、昨年度の実績値を用いるなど、さらにわかりやすい表現となるよう留意されたい。 	<p>学生の受入に関して、大学院課程への入学者数の低迷が続いていること、人事の適正化に関して、事務職員の人事評価が十分に実施されていないことなどの継続した課題が残されたままであり、これらについては一層の検討と取組が求められる。</p>

○項目別評価

委員評価	業務実績評価書(案)
1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）
<p><評価の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の高校訪問を拡充し、入学志願者を昨年度比7.72%増加させたことは大いに評価できる。 ・進学実績を検証した県内外の高校訪問や出張講義、大学見学などの実施により、志願者数949名と昨年度より大幅に増加させていることは評価できる。 ・アクティブラーニング室における授業が昨年度の176コマから251コマへと大幅に増加しており、学生の主体的・能動的学習が推進されていると認められる。 ・就職率も教職員が連携した就職支援を実施したことにより、本年度末時点で内定率99.3%と昨年度を上回っていることも努力の表れであり、評価できる。 ・就職率が99.3%と高いことは、評価できるものの、県内就職率は、36.2%で昨年度より低下しており、大学が持つ知的財産を地域に還元していくという観点からも、県内就職率を維持していくことは肝要であることから、県内企業との連携強化を図るなどより一層の取組を求める。 ・キャリア支援について、就職内定率が99.3%と高いことは評価できるものの、県内就職率は36.2%で昨年度の40.3%より低下しており、その要因として、就職決定者の県内出身者の割合が低下したことが挙げられているが、地域への貢献という観点から、より一層の取組を求める。 ・人手不足の時代に高い就職率の達成を目標に掲げることに違和感を感じる。 ・内定率の確保から就職先の質問題や地元定着問題となり、今まで以上に対応策を講じていくことが求められる。各種インターンシップの活用による就労ミスマッチの低減や魅力的な学内企業セミナーの開催なども望まれる。 	<p>学生の受入に関して、進学実績を検証した県内外の高校訪問の拡充や出張講義、大学見学などの実施により、949名と平成28年度の843名より大幅に増加させたことは高く評価できる。</p> <p>教育方法の改善に関して、アクティブラーニング室における授業が昨年度の176コマから251コマへと大幅に増加しており、学生の主体的・能動的学習が推進されていると認められる。</p> <p>キャリア支援に関して、就職率が99.3%と平成28年度の99.0%を上回る実績となったことは高く評価できる。</p> <p>就職率が高いことは評価できるものの、一方で県内就職率は36.2%と平成28年度の40.3%より低下している。</p> <p>大学が持つ知的財産を地域に還元していくという観点からも、県内就職率を高めていくことは肝要であることから、県内企業との連携強化を図り、各種インターンシップの活用による就労ミスマッチの低減や魅力的な学内企業セミナーを開催するなど、より一層の取組を求める。</p>

・アクティブラーニングについては施設利用率の問題ではなく、活動内容や活動形態等が今後問われることになる。また、学生の海外派遣やフィールドスタディー等の実施はさらなる規模拡充が期待される。

- ・大学院課程においては、志願者自体が低迷している状況が続いている。毎年度取組みを強化しているにもかかわらず、志願者が3～4名にとまっている実態を踏まえ、何が必要なのかを根本的に考えてみることも重要。
- ・大学院入学者が募集定員を大幅に下回る状況が続いており、その要因を十分に分析して抜本的な対策に取り組むことを求める。
- ・大学院課程については、入学定員と同数程度の志願者を確保できていない状況が続いており、経済状況を含めた社会的背景など、その要因を十分に分析して抜本的な対策に取り組むことを求める。
- ・大学院の志願者増加については、現在の社会情勢や人々の修学ニーズなどを踏まえれば、かなり大胆なカリキュラムの見直しなどが求められる。

- ・「教員に各交流施設の情報提供を継続し、授業での活用を促す」という年度計画について、業務実績の記載内容では具体性が不足していると思われる。
- ・「学修環境に関する大学院生のニーズ調査を継続し、必要な改善を行う」という年度計画について、業務実績は「課題等の把握した」ととどまっており不十分と思われる。
- ・「同窓会組織と連携した就職支援ネットワーク構築に向けた検討を継続する」という年度計画について、業務実績は「引き続き検討した」とあるが、検討するだけでなくその先が望まれる。

アクティブラーニングについては、活動内容や活動形態等を意識し、さらなる学習方法の充実が図られることを期待する。また、学生の海外派遣やフィールドスタディー等の実施はさらなる規模拡充を期待する。

大学院課程の志願者・入学数については、入学定員10名と同数程度の志願者を確保できていない状況が続いており、経済状況を含めた社会的背景など、その要因を十分に分析して抜本的な対策に取り組むことを求める。

教育環境の整備に関して、「教員に各交流施設の情報提供を継続し、授業での活用を促す」、学修環境の整備に関して、「学修環境に関する大学院生のニーズ調査を継続し、必要な改善を行う」キャリア支援として、「同窓会組織と連携した就職支援ネットワーク構築に向けた検討を継続する」という年度計画については、調査・検討に留まらず、具体的に取り組むことを期待する。

全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。

委員評価	業務実績評価書(案)
2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）	2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）
<p><評価の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究活動や産学官金との連携事業を積極的に推進し、役割を果たしていることは大いに評価できる。 ・教員等によるテーマ別公開講座を5シリーズ44回開催するなど研究成果の地域への還元がなされているほか、海外研究者を招へいた研究会や専任教員の海外学会への参加によるグローバルな視点からの研究が推進されていると認められ、評価できる。 ・戦略的研究助成事業において、平成29年度は顕彰該当者がいなかったことは残念。平成30年度に期待したい。 ・「戦略的研究助成事業により、高い研究成果の顕彰を継続する」という年度計画について、業務実績は「該当者はいなかった」とのことであるが「B評価」は甘いのではないか。 ・「戦略的研究助成事業により、高い研究成果の顕彰を継続する」という年度計画について、業務実績は「該当者はいなかった」とのことであるが、何らかの対策を講じる必要があると考える。 ・戦略的研究助成事業としての顕彰該当がなかったことである。総じて、より積極的な研究を支援していく諸施策が期待される場所である。 ・青森学術文化振興財団のプロジェクトはかなり見られるが、それ以外の受託研究などが少ないように感じられる。 	<p>共同研究活動や産学官金との連携事業を積極的に推進し、役割を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>教員等によるテーマ別公開講座を5シリーズ44回開催するなど研究成果の地域への還元がなされているほか、海外研究者を招へいた研究会や専任教員の海外学会への参加によるグローバルな視点からの研究が推進されていると認められ、評価できる。</p> <p>研究内容に関し、戦略的研究助成事業による顕彰の該当者がいなかったという実績及び、青森学術文化振興財団以外の受託研究などが少ないことを踏まえ、研究活動の活性化のため、対策を講じる必要があると考える。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>

委員評価	業務実績評価書(案)
3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（地域貢献）	3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（地域貢献）
<p><評価の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な高大連携を推進していることに加え、地域の大学間連携にも精力的に取り組んでおり、地域を重視した業務の実績は大いに評価できる。 ・青森市内の高校生を対象とした特別講座や大学見学、出張講義を数多く実施し、積極的に高大連携を推進しており、評価できる。 ・公立はこだて未来大学との連携については、28年度はワークショップが未実施となっていたが、両大学と学会との共催による学生等の研究発表等を実施したほか、公立はこだて未来大学主催のSD研修に参加するなど地域の大学間連携が推進されており評価できる。 ・公立はこだて未来大学の交流事業を拡充すると共に、他の地域との交流活動を意識的に開拓していくことが望まれる。その際には大学が交流事業を資金的にも支援していく仕組みがあれば可能性が広がると考えられる。 ・教育の就活分野でも掲載された県内企業バスツアー等と国際芸術センター青森の活動である。後者の活動は大学にとっては付帯的な活動ではあるが、青森の文化的活動として非常に高く評価される。 ・物産展、学生ファッションショー等ユニークな取り組みが行われており、今後も学生ならではの企画を発信し、地域での存在感をさらに向上させてほしい。 ・「県内の市町村との新たな連携協定締結に向けた調査及び検討に努める」という年度計画について、業務実績は「調査・検討を継続した」とあるが、調査・検討するだけでなくその先が望まれる。 ・「特待奨学生制度や遠隔授業システム等の社会人大学院生が就学しやすい制度についてのニーズ調査を継続し、必要な改善を行う」という年度計画について、業務実績は「課題等を把握した」ととどまっており不十分と思われる。 	<p>青森市内の高校生を対象とした特別講座や大学見学、出張講義を数多く実施し、積極的に高大連携を推進していることに加え、地域の大学間連携に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>公立はこだて未来大学との連携について、平成28年度はワークショップが未実施となっていたが、両大学と学会との共催による学生等の研究発表等を実施したほか、公立はこだて未来大学主催のSD（事務職員の資質向上・能力開発のための取組）研修に参加するなど地域の大学間連携が推進されており評価できる。</p> <p>国際芸術センター青森の活動は、大学にとって付帯的な活動ではあるが、青森の文化的活動として高く評価される。</p> <p>物産展、学生ファッションショー等ユニークな取り組みが行われており、今後も学生ならではの企画を発信し、地域での存在感をさらに向上させてほしい。</p> <p>県内市町村との連携に関し、「県内の市町村との新たな連携協定締結に向けた調査及び検討に努めること」、人材供給に関し、「特待奨学生制度や遠隔授業システム等の社会人大学院生が就学しやすい制度についてのニーズ調査を継続し、必要な改善を行うこと」という年度計画については、調査・検討に留まらず、具体的に取り組むことを期待する。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>

委員評価	業務実績評価書(案)
4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
<p><評価の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 内部監査は、重要な項目であり、適正かつ透明性のある大学運営推進のために、実施回数を2回に増やしたことは大いに評価できる。 事務職員の研修を充実させていることも、業務運営の改善、効率化の意識向上につながるものであり評価できる。 業務運営の改善・効率化に終わりはなく、よりよい業務運営を推進し続けてほしい。 公的研究費に係る旅費計算や立替払いの手続きの簡素化を図るなど事務の効率化が図られている。 教員の昇任制度の見直しはされたものの、人事評価については試行も実施されておらず引き継ぎの課題に留まっている。 事務職員の人事評価については、能力評価は行われているものの業績評価は試行も実施されておらず、継続しての検討事項に留まっている。適正かつ公正な人事評価は職員の業務遂行上のモチベーションとして重要であると考えられ、早期に実施されるよう取組みを加速するよう求める。 「新たな基準に基づく昇任制度の運用を開始するとともに、教員を対象とする学生による授業計画を組み入れた人事評価の試行を行う」という年度計画について、業務実績は「引き続き制度の検討を行う」にとどまっており不十分と思われる。 「事務職員を対象とする市の制度に準じた人事評価の試行を行う」という年度計画について、業務実績は「引き続き制度の検討を行う」にとどまっており不十分と思われる。 「事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、事務職員の人員の適正化に向けた検討を継続する」という年度計画について、業務実績によれば、「人員の適正化に向けた検討を行った」とあるが、検討するだけではなくその先が望まれる。 教育機関における人事制度を構築することは難しい。教員の昇任制度が見直され、次の段階として学生による授業評価を組み入れた人事評価を構築するというが、諸刃の刃の側面がある。仮に善意的であると判断しても、短期的な効果と長期的な効果をどのように按分するのか。形式的な数値だけで判断するのか、質的な要素をどのように捉えるのか、難しい試行錯誤は免れないように思われる。 教員と事務職員の人事評価の制度についてであり、次年度での整備が期待されるといえる。 	<p>運営体制の改善に関し、適正かつ透明性のある大学運営推進のために、内部監査を平成28年度の年1回から年2回に増やしたことは高く評価できる。</p> <p>事務の効率化・合理化に関し、事務職員の研修を充実させていること、公的研究費に係る旅費計算や立替払いの手続きの簡素化を図るなど事務の効率化が図られていることは評価できる。</p> <p>人事の適正化に関して、「新たな基準に基づく昇任制度の運用を開始するとともに、教員を対象とする学生による授業計画を組み入れた人事評価の試行を行う」、「事務職員を対象とする市の制度に準じた人事評価の試行を行う」、「事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、事務職員の人員の適正化に向けた検討を継続する」という年度計画については、適正かつ公正な人事評価は職員の業務遂行上のモチベーションとして重要であると考えられることから、調査・検討に留まらず、早期に実施されるよう求める。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>

委員評価	業務実績評価書(案)
5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
<p><評価の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学志願者増加に伴う検定料の増加、助成の増加等、様々な取組みの成果として収入増加に結びついていることは大いに評価できる。 ・経費抑制への取組みも見直しが図れており、効果が見られる。 ・入学志願者数増加による検定料の増加、受託研究・受託事業等による外部資金の獲得、青森学術文化振興財団からの助成の増など、収入の増加が図られたことは評価できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「他大学の事例も参考としながら、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、事務職員の人員の適正化に向けた検討を継続する」という年度計画について、業務実績によれば、再掲にもかかわらず、「人員の適正化に向けた検討を行った」とあるが、検討するだけでなくその先が望まれる。 ・「効率的な予算執行に努めるため、財務状況の分析を継続する」という年度計画について、業務実績は「財務状況の分析を行った」とあるが、分析するだけでなくその先が望まれる。 	<p>外部研究資金その他の自己収入の増加に関して、入学志願者増加による検定料の増加、受託研究・受託事業等による外部資金の獲得や様々な取組の成果として収入増加に結びついていることや、経費抑制への取組は高く評価できる。</p> <p>経費の抑制に関して、「他大学の事例も参考としながら、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、事務職員の人員の適正化に向けた検討を継続する」、「効率的な予算執行に努めるため、財務状況の分析を継続する」という年度計画については、調査・検討に留まらず、具体的に取り組むことを期待する。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>

委員評価	業務実績評価書(案)
6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置
<p><評価の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通じて、法人の様々な情報を適切に開示している姿勢も評価できる。 ・平成28年度業務実績報告書において計画を十分に実施していない項目のフォローアップを行い、ホームページで公表したほか、評価委員会からの評価結果を踏まえ提案事項等に適切に対応したことは評価できる。 ・教員並びに事務職員の人事評価については、第二期中期計画期間内の試行実施を目指しており、自己評価をCとしているが、理解を得ながら十分検討した上で、制度設計をする姿勢は評価できる。 ・「新たな基準に基づく昇任制度の運用を開始するとともに、教員を対象とする学生による授業評価を組み入れた人事評価の試行を行う」という年度計画について、業務実績によれば、再掲にもかかわらず、「検討を行うこととした」にとどまっており不十分と思われる。 	<p>平成28年度業務実績報告書において計画を十分に実施していない項目のフォローアップを行い、公表したほか、評価委員会からの評価結果を踏まえ提案事項等に適切に対応したことは評価できる。</p> <p>評価の充実に関して、教員並びに事務職員の人事評価については、第二期中期計画期間内の試行実施を目指しており、教員の理解を得ながら十分検討した上で、制度設計する姿勢は評価できるものの、今後は、他大学等の取組等も踏まえながら、具体的に取り組むことを求める。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>

委員評価	業務実績評価書(案)
7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
<p><評価の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際芸術センター青森において、次世代を担う小中学生を対象とした創作体験や自然観察などの教育プログラムの実施は、非常に有意義な取組として評価できる。 ・情報セキュリティポリシーに基づく、情報セキュリティ向上への取組みも強化されており大いに評価できる。 ・情報セキュリティポリシーに基づき情報セキュリティの向上が図られたことや、避難訓練、AED講習会の実施、新たに「さすまた」の扱いに関する講習会の開催など防災対策が強化されていることは評価できる。 ・安全管理に関する事項や人権啓発、法令遵守に関する事項への対応が適切に実施されており評価できる。 	<p>施設設備の整備・活用等に関して、国際芸術センター青森において、次世代を担う小中学生を対象とした創作体験や自然観察などの教育プログラムの実施は、非常に有意義な取組として評価できる。</p> <p>安全管理に関して、情報セキュリティポリシーに基づき情報セキュリティの向上が図られたことや、避難訓練、AED講習会の実施などの防災対策に加え、新たに「さすまた」の扱いに関する講習会の開催などの防犯対策が強化されていることは評価できる。</p> <p>全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。</p>